

(案)

(仮) 札幌市生涯歯科口腔保健推進計画に関する提言書

平成 28 年 8 月 日

札幌市健康づくり推進協議会 歯科口腔保健部会

はじめに

1 札幌市の歯科口腔保健の現状と課題

2 基本理念

3 重点取組と基本取組

1) 重点取組

ア 「かかりつけ歯科医を持つ人を増やします」

イ 「むし歯や歯肉炎のない子どもを増やします」

2) 基本取組

ア 「むし歯や歯周病のある人を減らします」

イ 「高齢になっても自分の歯を有する人を増やします」

「高齢になっても食べる力（咀嚼嚥下機能）が良好な人を増やします」

ウ 「歯と口の健康づくりを推進するための環境整備」

4 計画策定にあたり留意すること

別表

取組別指標と現状値

参考

札幌市健康づくり推進協議会歯科口腔保健部会委員名簿

札幌市健康づくり推進協議会歯科口腔保健部会の検討経過

はじめに

国は、平成 23 年に「歯科口腔保健の推進に関する法律」が制定され、地方自治体は歯科口腔保健対策の一層の推進を求められています。さらに、「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」（平成 24 年）で具体的な行動目標を示し、ライフステージにおける疾病対策に加え、要介護高齢者への歯科保健対策や歯科口腔保健を推進するための環境整備等について、地方自治体が今後の歯科口腔保健対策として取り組むこととしています。

また、北海道においては、「北海道歯・口腔の健康づくり 8020 推進条例」を制定し、「北海道歯科保健医療推進計画」の下に歯科保健の推進に取り組んでいます。

札幌市は、札幌市健康づくり基本計画「健康さっぽろ 21（第二次）」に基づき、歯科口腔保健対策に取り組んできましたが、生涯を通じた総合的な歯と口の健康づくりとして 8020 運動を進めるために、歯科口腔保健に関する実施計画を策定しようとしているところです。

本提言は、札幌市健康づくり推進協議会に設置された歯科口腔保健部会において、有識者、専門家、市民の代表等により検討を重ね、仮）札幌市生涯歯科口腔保健計画の基本理念、取組、策定における留意点等をまとめたものです。

札幌市におかれては、本提言に基づき具体的な検討を進め、提言内容を反映した総合的な計画を早期に策定することを望みます。

平成 28 年 8 月

札幌市健康づくり推進協議会歯科口腔保健部会

部会長 高橋 一行

1 札幌市の歯科口腔保健の現状と課題

札幌市における歯科口腔保健の現状と課題を、ライフステージごと（乳幼児期、学齢期、妊娠期、成人期、高齢期）および障がい者（児）・要介護高齢者について検討しました。

また、歯科口腔保健を推進するためには関係機関や地域関係組織の連携が必要であることから、歯と口の健康づくりを推進するための環境整備についても併せて検討しました。

1) 乳幼児期

現状

幼児歯科健診（1歳6か月児、3歳児歯）結果によると、1歳6か月でむし歯になる恐れのある幼児（O2型）の割合は32.9%（平成26年度）であり、最近10年間で増加傾向にありますが、むし歯のない3歳児の割合は83.3%（平成26年度）と増加しています。

しかし、区ごとに比較するとむし歯のない3歳児の割合が最も高い区と最も低い区で11ポイントの差があります。

不正咬合のある3歳児の割合は13.5%（平成26年度）、全国平均と同様です。

かかりつけ歯科医を持っている者の割合は、1歳6か月児で42.7%、3歳児で59.8%です（平成26年度）。

課題

むし歯のない3歳児の割合が増加していますが、健康さっぽろ21（第2次）では90%（平成35年度）を目指しています。目標達成のため早い時期からかかりつけ歯科医を持ち、フッ化物を適切に利用することなどについてさらに普及啓発に取り組む必要があります。

また、むし歯のない3歳児の割合を区ごとに比較すると11ポイントの差があります。今後は歯科保健状況などを区ごとに把握、分析し、それぞれの状況に応じた歯科口腔保健対策を講じることが必要です。

2) 学齢期

現状

札幌市学校保健統計調査（平成26年度）では、むし歯のない12歳児の割合は51.8%と増加傾向にありますが、全国平均の60.4%と比べ低い状況です。また、

12 歳児の 1 人平均う歯数（未治療と治療済みのむし歯の数）は 1.1 本と減少傾向にあります。全国平均の 0.9 本と比べ多い状況です。

歯肉炎のある 12 歳児の割合は 2.6%と、全国平均 4%より良い状況です。

課題

学齢期は、歯と口の健康を含め生涯を通して望ましい生活習慣の獲得する時期です。むし歯予防とともに、成人期以降の歯科疾患、特に歯周病を予防することが重要なことについて、普及啓発にさらに取り組むことが必要です。

3) 妊娠期

現状

札幌市が実施している妊産婦歯科健診の妊婦受診率は 4.3%（平成 26 年度）であり、受診者の 36.9%が、歯科治療が必要と判定されています。

課題

妊娠期の重度の歯周病は、早産や低体重児出生の原因となることが報告されています。安心安全な出産のために、妊娠期の歯と口の健康に関する情報提供が重要です。

他政令市の実施状況では、歯科医療機関で個別方式で実施している 10 市の平均受診率は 29.4%、札幌市を含め保健センター等で直営方式で実施している 8 市の平均受診率は、10.1%となっており、札幌市の受診率は低い状況です。

歯周病などの治療へのきっかけとなる妊婦歯科健診は、多くの妊婦が受診できることが大切です。

妊娠期の重要課題は妊婦歯科健診の受診率の向上であり、速やかに改善する必要があります。

4) 成人期

現状

平成 26 年度歯周病検診実施結果から、歯周炎を有する人の割合は、40 歳で 50.9%、50 歳で 57.8%と、全国平均（平成 23 年度歯科疾患実態調査結果）40 歳 25.6%、50 歳 35.4%と比べて高い状況です。

平成 27 年度の札幌市歯周病検診受診率は 1.9%と、他の政令市と比べて低い状況です。

平成 26 年度市政世論調査結果から、かかりつけ歯科医がいる人の割合は 63.6% ですが、症状の有無に関係なく定期に行く人の割合はそのうちの 23.0%、症状があつたり、気になることがあつた時に受診する人の割合は 77.9% です。

また、定期的に歯科健診を受ける人の割合（18 歳以上）は 19.2% です。歯科医院で健診を受けない理由では、歯や歯ぐきに問題がないと回答した人の割合が 32.7%、忙しい、面倒だからした人の割合は、それぞれ 29.2%、21.9%。痛くなってから治療すれば十分した人の割合が 21.0% です。

課題

かかりつけ歯科医の役割は、歯科治療のほかに、口腔ケアや歯の健康に関する相談などですが、市政世論調査結果では、このことが市民に広く浸透しているとは言いがたい状況です。かかりつけ歯科医を持つことの意義を普及啓発していくことが重要です。

歯周病は成人期以降の歯を失う最も大きな原因です。8020 を目指すためには歯周病の早期発見・治療が重要なことから、歯周病検診受診率の向上が重要です。

平成 27 年度から受診対象者への受診券個別通知を開始し 受診率向上につながっていますが、今後も取組を進める必要があります。

5) 高齢期

現状

平成 26 年度歯周病検診実施結果から、歯周炎を有する人の割合は 60 歳 61.0%、70 歳 60.9% と、全国平均（平成 23 歯科疾患実態調査）60 歳 47.5%、70 歳 42.8% と比べて高く、1 人平均現在歯数は 60 歳 24.2 本、70 歳 22.8 本と、全国平均 60 歳 22.9 本、70 歳 17.5 本より多い状況です。

平成 26 年度市政世論調査結果では、70 歳以上で何でも食べることができる人の割合は、57.4% です。また、口腔がんについて知っている人の割合は 79.1% と高いものの、口腔がんを自己観察で発見できることを知っている人の割合は 27.0% にとどまっています。

課題

生涯、咀嚼嚥下（噛む、飲み込む）機能を保つには、適切な口腔ケアを受けることやかかりつけ歯科医を持つことが大切であり、これらのことについて普及啓発していくことが重要です。

口腔がんは、初期の病変を自分で発見することが可能です。札幌市は、平成 24 年度から口腔がんの予防啓発に取り組み、口腔がん早期発見のために自己観察方法を普及啓発していますが、今後も取組を進める必要があります。

6) 障がい者（児）・要介護高齢者

現状

札幌歯科医師会口腔医療センターでは、昭和 57 年から障がい者（児）診療を実施しており、平成 27 年度は 1,051 人（延 4,579 人）が受診しています。

障がい者（児）の歯科診療に対応している市内歯科医療機関は、北海道が作成した障がい者歯科医療協力医名簿に記載されています。

介護給付「居宅療養管理指導料」件数のうち、約 36%が歯科医師・歯科衛生士が実施しています。給付金額では 44.7%を占めています（平成 26 年度）。

課題

障がい者（児）・要介護者ともに、継続した口腔ケアを受けるためには、かかりつけ歯科医を持つことが大切です。

また、障がい者（児）・要介護者と関係する医療・介護専門職と歯科医療関係者との連携も必要です。

7) 歯と口の健康づくりを推進するための環境整備

歯と口の健康づくりを推進するためには、保健・医療・福祉などの関係機関や地域の関係組織が連携、協力して取り組める環境を整備することが必要です。

<医科歯科連携の推進>

歯と口の健康は全身の健康と関わっており、歯周病は糖尿病や心疾患、低体重出生などとの関係があることが多く報告されています。また、がん患者の手術前に口腔ケアを実施することにより、術後の肺炎を防ぐことも報告されています。疾病の重症化予防や QOL の向上を図るために医科歯科連携をさらに推進する必要があります。

<地域歯科医療・介護の連携推進>

口腔ケアにより、要介護高齢者の発熱、肺炎を効果的に予防できます。要介護高齢者、特に在宅療養の場合、口腔ケアを普及するためには、かかりつけ歯科医や地域の歯科医と介護専門職との連携が必要です。このような連携は、地域包括ケアシステムを構築する上でも重要です。

<災害時歯科口腔保健対策の推進>

誤嚥性肺炎による震災関連死を防ぐため、平常時より口腔ケアに関する啓発などを行い、関係者との顔の見える関係づくりに努めることが必要です。また、災害時においては、関係機関とともに被災者の健康維持のために応急歯科医療および口腔ケアを提供することが必要です。

＜歯科口腔保健に関する情報の提供＞

関係者間の連携を深めるためには情報を共有することが重要です。

2 基本理念

札幌市健康づくり基本計画健康さっぽろ21（第二次）では、「歯・口腔の健康」を全体目標「健康寿命の延伸」、「健康格差の縮小」、「すこやかに産み育てる」を達成するための基本要素の一つに位置付けています。

一方、国と日本歯科医師会は平成元年から、「80歳になっても自分の歯を20本以上保つ」8020運動を推進しています。

また、自分の歯を多く保つことや、入れ歯などで口腔機能を維持することが健康寿命の延伸につながるということが報告されています。

歯と口の健康は、すべてのライフステージにおいて質の高い健康的な生活を送るために重要な要素であり、食事や会話を楽しむために欠くことができません。

札幌市が、8020運動を推進し、市民が笑顔で生き生きと暮らすまちを目指すことを願って、計画の基本理念を以下のように提案します。

8020 運動推進のまち・笑顔のまち さっぽろ
子どもから高齢者まで誰もが歯と口の健康を保ち、
いきいきと暮らせるよう 8020 運動を推進します

3 重点取組と基本取組

健康さっぽろ21（第二次）では、以下の5点を基本要素「歯・口腔の健康」の取組方針としています。

- かかりつけ歯科医を持つ人を増やします
- むし歯や歯周疾患のある人を減らします
- むし歯のない子どもを増やします
- 高齢になっても自分の歯を有する人を増やします
- 高齢になっても咀嚼機能が良好な人を増やします

かかりつけ歯科医を持つことは、全てのライフステージにおいて治療だけでなく定期的な歯科健診や口腔ケアを継続して受けられることであり、8020運動を進めるうえで重要な取り組みです。

また、乳幼児期、学齢期は8020運動の入り口であり、生涯にわたる歯と口の健康づくりの基礎となる重要な時期です。

このため「かかりつけ歯科医を持つ人を増やします」と「むし歯のない子を増やします」をこの計画では重点取組とすることを求めます。

さらに、

- 「むし歯のない子どもを増やします」については、学齢期から歯周病の予防を進めることが重要なため、「歯肉炎のない子」を加え「むし歯や歯肉炎のない子を増やします。」とすること
- 高齢期は、噛む（咀嚼）機能の維持とともに飲み込む（嚥下）機能も大切であることから「高齢になっても食べる力（咀嚼嚥下機能）が良好な人を増やします」とすること
- 歯と口の健康づくりを推進するためには、保健・医療・福祉などの関係機関や地域の関係組織が連携、協力して取り組める環境を整備することが必要であることから、「歯と口の健康づくりを推進するための環境整備」を基本取組に加えること

を求めます。

【重点取組】

- 「かかりつけ歯科医を持つ人を増やします」

- ・子どもたちの歯や口の健康を守るために「むし歯や歯肉炎のない子どもを増やします」

【基本取組】

- ・自分の歯を生涯にわたって保つために「むし歯や歯周病のある人を減らします」
- ・「高齢になっても自分の歯を有する人を増やします」
「高齢になっても食べる力（咀嚼嚥下機能）が良好な人を増やします」
- ・「歯と口の健康づくりを推進するための環境整備」

以上の2つの重点取組、3つの基本取組によって計画を推進することを求めます。
下記に、それぞれの取組ごとに具体的な内容をまとめました。

1) 重点取組

ア 「かかりつけ歯科医を持つ人を増やします」

かかりつけ歯科医とは、治療だけでなく、身近な地域でライフサイクルに沿った健康相談や口腔ケアなどを継続して受けることができる歯科医師です。

現状では、かかりつけ歯科医がいる市民は多いが、定期的な歯科健診や相談などで受診する割合より、症状がある時にかかりつけ歯科医に受診する割合が高い状況にあります。

歯と口の健康を保つためにはセルフケアの実践とともに、早い時期からかかりつけ歯科医を持ち、定期歯科健診や口腔ケアを受けることが大切なことから、かかりつけ歯科医の役割やかかりつけ歯科医を持つことのメリットについて普及啓発に取り組むことを求めます。

また、障がい者（児）・要介護高齢者も継続した口腔ケアを受けるために、かかりつけ歯科医を持つことが望ましいので、対応可能な歯科医療機関の情報の集約し発信することと、相談窓口であることをさらに周知していくことを求めます。

- かかりつけ歯科医の役割や、かかりつけ歯科医を持つことのメリットについて普及啓発する
 - ・かかりつけ歯科医をテーマとした講演会、シンポジウムなどの開催
 - ・かかりつけ歯科医について市HP、SNSなど様々な媒体を通して広く情報を発信する
- 障がい者（児）・要介護高齢者の歯科医療や口腔ケア等に関する情報を提

供する

- ・情報の収集と発信に努めるとともに、保健所が相談窓口であることを周知する

イ 「むし歯や歯肉炎のない子どもを増やします」

乳幼児期は、食習慣や生活習慣の基本を形成し、歯と口の健康づくりの入り口となる時期です。また学齢期は、生活習慣が形成され、セルフケアの意識を持ち、実践できる力を身に付ける時期です。

まさに、8020運動の入り口であり、生涯にわたる歯と口の健康づくりの基礎となる重要な時期です。歯科口腔保健対策を推進するうえで保育所・幼稚園等と連携して対策を講じることを求めます。

子どものむし歯は、経年的に減少していますが、今後もこの傾向を維持し、目標、達成のためにはフッ化物の利用や望ましい食習慣、生活習慣などについてさらに普及啓発することを求めます。

また、むし歯のない3歳児の割合が最も高い区と最も低い区では11ポイントの開きがあります。札幌市全体で改善を図るためには、区を単位として歯科口腔保健対策を進めることを求めます。

- フッ化物によるむし歯予防について普及啓発を強化し、フッ化物の利用を推進する
 - ・フッ化物の利用方法について普及啓発を強化する
 - ・フッ化物によるむし歯予防をテーマとした講演会や研修会を開催する
- むし歯のない3歳児を増やす
 - ・1，2歳児のむし歯予防対策を強化する
 - ・3歳児のう蝕有病率の高い区へのむし歯予防対策を強化する
- 6歳臼歯をむし歯から守る
 - ・幼稚園や保育所の職員を対象とした研修会の開催等により情報を提供する
- 生涯を通じた歯と口の健康づくりの基盤となる望ましい生活習慣の形成を促す
 - ・歯の磨き方を含め、むし歯や歯周病の予防につながる生活習慣に関する保健指導等を充実、強化する

2) 基本取組

ア 「むし歯や歯周病のある人を減らします」

妊娠期の歯周病は、低出生体重児や流産の原因になることが報告されています。歯周病の予防や重症化を防ぐためには、歯科健診により歯周病の早期発見、治療につなげることが必要です。

現状では、札幌市が実施する妊婦歯科健診は保健センターを会場とした集団方式で、受診率は4.2%（平成25年度）と低い状況です。

歯科医療機関で個別受診方式で妊婦歯科健診を実施している政令市（10市）の平均受診率は札幌市より高く29.4%（平成25年度）となっています。妊婦が歯科健診を受診しやすい環境を整備し、受診率向上を図ることを求めます。

成人期は、歯周病の予防や重症化を防ぎ生涯自分の歯を保つことが大切な時期であり、歯磨きなどのセルフケア、望ましい生活習慣の実践とともに、定期的な歯科健診と口腔ケアを受けることが必要です。

また、歯周病は糖尿病や心疾患など全身疾患ともかかわりが深いこと、喫煙が歯周病発症と重症化のリスク因子であることをさらに普及啓発することを求めます。

札幌市では、平成15年度から歯周病検診を実施していますが、受診率は伸び悩んでいます。受診率の向上のために平成27年度に受診券の個別送付を開始しましたが、今後も受診率の向上に努め、検診受診がかかりつけ歯科医を持つきっかけとなるよう取り組むことを求めます。

- 安心安全な出産を迎えられるよう、妊婦歯科健診が受診しやすい環境を整備する
- 定期的な歯科健診の必要性について普及啓発を強化する
 - ・ 歯と口の健康づくりに関する情報提供と普及啓発を強化する
 - ・ 健診結果等を分析し、市民に情報発信する
- 歯周病検診の受診率向上を図り定期的な歯科健診へのきっかけづくりとする
 - ・ 札幌歯科医師会と協力して、歯周病検診の受診率向上に努める

イ 「高齢になっても自分の歯を持つ人を増やします」

「高齢になっても食べる力*（咀嚼嚥下機能）が良好な人を増やします」

*食べる力：食べ物を、噛み飲み込む機能（咀嚼嚥下機能）

高齢期は、自分の歯を保ち、食べる力を維持するために、かかりつけ歯科医などの下で継続して歯科健診や口腔ケアを受けることが大切です。

また、口腔ケアは誤嚥性肺炎を効果的に予防することも報告されています。口腔ケアの重要性について普及啓発を強化し、高齢者の食べる力の維持向上や誤嚥性肺炎の予防などに取り組むことを求めます。

口腔がんは、自分で初期の病変を見つけることが比較的可能です。手術が必要になった場合は、口腔機能を損なうこともあります。札幌市は、平成24年度から口腔がんの予防、早期発見の啓発を行っていますが、セルフチェック表の普及など取り組みを強化していくことを求めます。

- 自分の歯を保ち、食べる力を維持するために、口腔ケアの重要性について普及啓発を強化する
 - ・口腔機能の維持向上および誤嚥性肺炎の予防、フッ化物の利用等について健康教育を実施する
- 口腔がんの予防や早期発見について普及啓発を強化する
 - ・口腔がんは自分で発見できることをさらに普及啓発する
 - ・口腔がん検診を継続する

ウ 「歯と口の健康づくりを推進するための環境整備」

歯と口の健康と全身の健康との関係や、口腔ケアの有用性が明らかとなり、医科歯科連携、歯科医療と介護との連携の推進が課題となっています。大学病院や他の自治体では先駆的な取組※が報告されておりますが、札幌市においても、今後推進する必要があります。歯と口の健康づくりを推進するためには、保健・医療・福祉などの関係機関や地域の関係組織が連携、協力して取り組める環境を整備することが必要です。※代表的な取組として「産科・歯科・行政が連携した早産予防対策事業（熊本県）」、「回復期リハビリテーション病院歯科が中心となる病診連携への取り組み（広島市）」等があります。

これらの連携を進めるために具体的な取り組みについて検討することを求めます。災害時に避難所などで必要な口腔ケアについて、市民、関係機関などが使用する具体的な手引を作成し、平時より普及することを求めます。

- 医科歯科連携や地域歯科医療・介護の連携を推進する
 - ・これらの連携を推進するために、具体的な取り組みについて検討する
- 災害時の歯科口腔保健対策を推進する

- ・災害時に避難所などで必要な口腔ケアについて、市民、関係機関などが使用する具体的な手引を作成し、普及する
- 歯科口腔保健に関する情報を発信する
 - ・市 HP 等の充実や、SNS など様々な媒体を介して情報発信に努める

4 計画策定にあたり留意すること

1) 普及啓発の進め方

計画を推進するために普及啓発が主要な取り組みの一つとなっています。講演会や市 HP、SNS などがその手立てとされていますが、歯と口の健康づくりについて、たとえば口コミなどによって市民の身近で情報発信することも有効です。

市民がボランティアとして歯と口の健康づくりに参加できるような取り組みを検討し、実現することを求めます。

2) 評価と進行管理

取組ごとに達成状況を把握することが必要です。計画の進行管理のため、指標と計画最終年度の目標値を設定することを求めます。

<別表>

取組別指標と現状値

かかりつけ歯科医のある人を増やします	現状値	
かかりつけ歯科医のいる1歳6か月児の割合	42.7%	健康さっぽろ 21 市民意識調査 H23
かかりつけ歯科医のいる3歳児の割合	59.8%	健康さっぽろ 21 市民意識調査 H23
定期的に歯科健診を受ける人の割合(18歳以上)	19.2%	札幌市市政世論調査 H26

むし歯や歯肉炎のない子を増やします	現状値	
むし歯のない3歳児の割合【健】	83.3%	3歳児歯科健診結果 H26
むし歯のない12歳児の割合【健】	51.8%	札幌市学校保健統計調査 H26
むし歯になるおそれがある1歳6か月児の割合	32.9%	1歳6か月児歯科健診結果 H26
むし歯のない3歳児の割合が85%以上の区	4区	3歳児歯科健診結果 H26
歯肉炎のある12歳児の割合	2.6%	札幌市学校保健統計調査 H26
かかりつけ歯科医のいる1歳6か月児の割合	42.7%	健康さっぽろ 21 市民意識調査 H23
かかりつけ歯科医のいる3歳児の割合	59.8%	健康さっぽろ 21 市民意識調査 H23

歯周病のある人を減らします	現状値	
40歳で歯周炎を有する人の割合【健】	50.9%	札幌市歯周病検診結果 H26
60歳で歯周炎を有する人の割合【健】	61.0%	札幌市歯周病検診結果 H26
妊婦歯科健診の受診率	4.3%	札幌市衛生年報 H26
歯周病検診の受診率	1.9%	札幌市歯周病検診結果 H27

高齢になっても自分の歯を有する人を増やします 高齢になっても食べる力が良好な人を増やします	現状値	
60歳で24本以上歯を有する人の割合【健】	79.7%	札幌市歯周病検診結果 H27
自分の歯を20本以上有する70歳以上の人の割合	39.7%	札幌市市政世論調査 H26
歯周病検診の受診率	1.9%	札幌市歯周病検診結果 H27
口腔がんについて知っている人の割合	79.1%	札幌市市政世論調査 H26
口腔がんを自分で発見できることを知っている人の割合		
60-69歳	33.3%	札幌市市政世論調査 H26
70歳以上	34.0%	札幌市市政世論調査 H26
70歳代で咀嚼が良好な人の割合【健】	—	
70歳代で飲み込む機能が良好な人の割合	—	

【健】健康さっぽろ（第二次）指標

氏 名	所 属
阿部 文雄	市民公募委員
伊藤 洋子 (第3, 4回部会)	南区地区女性連絡協議会 会長
枝村 正人	一般社団法人札幌市医師会 地域保健部長
金子 博之	札幌市小学校長会 会計 (二十四軒小学校長)
小林 元子	北海道歯科衛生士会 札幌支部長
野宮 修治	北海道国民健康保険団体連合会 事務局長
◎高橋 一行	一般社団法人札幌歯科医師会 理事
○玉腰 暁子	北海道大学大学院医学研究科 社会医学講座公衆衛生学分野 教授
林 孝之	札幌市厚別区介護予防センターもみじ台
三上 良子 (第1, 2回部会)	南区地区連絡協議会 会長
宮崎 晃巨	北海道公立大学法人 札幌医科大学医学部 口腔外科学講座 准教授
向川 泰弘	一般社団法人札幌市私立保育園連盟 副会長
森田 宣広	一般社団法人札幌青年会議所 副理事長
吉田 めぐみ	公益社団法人北海道栄養士会 副会長

◎：部会長 ○：副部会長

札幌市健康づくり推進協議会歯科口腔保健部会の検討経過

開 催 日		議 題
第1回	平成28年2月4日	札幌市の歯科口腔保健の現状と課題 札幌市における歯科口腔保健施策の方向性案
第2回	平成28年4月27日	仮) 札幌市生涯歯科口腔保健推進計画の位置づけと体系 歯科口腔保健の取組
第3回	平成28年5月17日	歯科口腔保健の取組 仮) 札幌市生涯歯科口腔保健推進計画の体系
第4回	平成28年6月21日	歯科口腔保健の推進に関する提言